

北海道教育委員会「S-TEAM教育推進事業」
令和4年度（2022年度）授業研究セミナー

道北・国語 実施報告



令和4年12月2日（金）、北海道上富良野高等学校を会場に「主体的・対話的で深い学び（授業と評価の一体化）」をテーマとして、道北ブロック国語科の授業研究セミナーを開催しました。道北ブロックの各管内から22名の参加がありました。

本講座の実施内容等を紹介しますので、授業改善の参考資料として御活用ください。

実 施 状 況

【学習指導案検討会】

本セミナーの研究授業の実施に向け、道立高校教諭3名、道教委指導主事2名で、「授業研究チーム」を編制し、オンラインで学習指導案検討会を4回実施しました。主な検討内容は次のとおりです。

- 意見文を書く指導をする際に使用する教材は、教科書教材にこだわらず、指導目標に照らして選定する方がよいのではないか。
- 意見文のテーマは、生徒の身近な話題から設定すると書きやすいのではないか。
- 意見文を書く目的を生徒と共有することが重要ではないか。
- 意見文の「構成の検討」や「記述」に指導を焦点化・重点化するため、意見文の根拠となる情報は、生徒に収集させずに教師が提示する方がよいのではないか。

【研究授業（授業公開）】北海道上富良野高等学校 吉田 尚子 教諭

「国語総合」の単元「反論を想定した意見文を書こう」を実践しました。単元の主な指導目標を「論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。」とし、テーマ「成人年齢は20歳 or 18歳のどちらがよいか」について意見文を書く学習活動を行いました。単元の流れは、①優れた意見文を読み説得力のある意見文の要素をクラス全体で共有する、②テーマについて一人ひとりの生徒が考えた意見文の構成や展開をクラス内で交流する、③自分とは異なる立場の生徒の意見を踏まえ、反対意見への反論を取り入れて論の構成や展開を再考する、④③で決めた論の構成や展開に沿って意見文を書く、としました。本時（②～③）では、一人一台端末のロイロノート上で、各生徒が1カードに1文で示した複数のカードを矢印でつないで論の展開を「見える化」し、交流の際に他者の意見文の展開が一目瞭然となるよう工夫しました。

[単元の指導と評価の計画リンク](#)



[学習指導案リンク](#)



[ワークシートリンク](#)



【研究協議 1】「研究授業について」

まず、参加者が個人で研究授業の振り返る時間を持ちました。その後、授業者からの自評、参観者による質問と授業者による応答、授業に対する運営者からの講評の順で研究協議を行いました。

参加者からは、「他者の意見の中から、自分とは異なる立場の意見を自ら探し、その反論を書くという一連の流れが、主体的な学びを実現するための工夫だと思った。」「端末上で全員の意見を共有したり、カードの入替や挿入により文の構成や展開を自由に検討したりしていたのが効果的だった。」等の意見や感想が出されました。



ロイロノートで文章の展開を検討している生徒の様子

【研究協議 2】「『書くこと』の授業の在り方について」

3～4名のグループに分かれて、「『書くこと』の授業づくりのポイント」及び「『書くこと』における学習評価の工夫」を協議の柱として、グループ協議を行いました。



授業者を交えての協議の様子

参加者からは、「『書くこと』において、形式と内容の両方を評価することは困難なので、年度の前半では構成について、後半では内容について指導することを年間指導計画に位置付ける必要がある。」「説得力のある文章を書くために、主張、データ、論拠からなる三角ロジックを用いることは効果的だ。」「ロイロノートを使うことで、生徒の思考の足跡を残せるので、評価の材料にできる。」等の意見や感想が出されました。

セミナー参加者の声

【参加者の声】

- 生徒が一生懸命自ら考えている様子が伝わってきた。
- 反論をクラスの意見から探し自分の主張に活かす言語活動は効果的だと思った。
- 意見を集約する場面において、ICTツールは有効だと分かった。
- 自己評価を分析して「主体的に学習に取り組む態度」を評価する方法が参考になった。

【アンケートの結果（一部）】

- 1 「探究的な学び」・「主体的対話的で深い学びの充実」に関する理解は深まりましたか。
 - ・ おおいに深まった 63.6%
 - ・ 深まった 36.4%
- 2 「ICT（一人一台端末）を活用した効果的な学習指導」に関する理解は深まりましたか。
 - ・ おおいに深まった 63.6%
 - ・ 深まった 36.4%



自分が考えた文章の論の展開を説明する生徒の様子